

特集 大山観光の未来を担う

旅館組合の若手経営者に聞く

「伯耆の国大山開山1300年祭」を迎えるにあたり、大山の若手5人衆と大山を盛り上げる(株)さんどうの代表に話を聞きに出かけました。



雪花荘 佐伯勇治さん 大山ホワイトパレス 林原健悟さん 川床屋 小椋康一さん 大山ビューハイツ 山根健作さん とやま旅館 兜山真宏さん

開山1300年を控え、大山の将来をどう考えていますか。

【小谷さん】

参道沿いの店を元気にするためのアイデアを提供しています。

具体的には、かき氷おにぎりなどのメニュー開発や店のデザイン・レイアウト、そして新しい土産物を開発から販売まで手掛けています。空き店舗の活用も展開しているところです。

今後の問題として、情報館・自然歴史館・改修される予定のこもれば館の立ち位置が不明瞭となっています。ツアーデスク業務も担当

していますが大山寺地区内の宿泊施設が配宿を必要としているかも含め、観光案内所と一体化して、幅広い観光客の受け入れが望まれます。

をした方がいいと思っています。

【小椋さん】

現在の自然相手の商いから、歴史・文化を魅力的に感じてもらえる大山にならないければと思います。

参道沿いの空き家対策はもちろんですが、宿坊の復活など、価値ある大山に10年先、世界の皆さまに「一度は行って泊まってみたい」と思っていただけのようにと考えています。

取材を終えて

若い経営者たちは、施設・店をこれからの時代にあった形で展開して、サービス向上を図るアイデアを持っていた。一方、施設のリニューアルなどは、資金を考えると難しいといった不安が聞かれたのが印象的であった。



(株)さんどう 小谷 英介さん

【山根さん】

大山には来たい・見たいと案内所に尋ねる場所・施設が乏しい。自然の美しさに加え、目玉が必要な。地区内の空き店舗に新規参入を期待したいし、寺神社のパワーアップを望みます。

【林原さん】

アクティビティメニューの充実を望んでいます。星空ツアーなどで夜に宿泊者が退屈しないイベント、居酒屋や遊び場があればいいですね。

【佐伯さん】

前泊する家族向けのアクティビティイベントを考えていきたいです。空き家・空き店舗など街並みの整備をすすめて欲しいです。

【小椋さん】

現在の状態では厳しい将来になると思います。

【兜山さん】

15年前からたいまつ行列の年越しイベントを開催しています。大山は信仰の山、大山らしさを打ち出すことが大切です。

例えば、スキー場を利用したダウンヒルバイク世界大会を開催したいと考えています。そのコースを自転車愛好家に開放すれば、冬以外の季節の活用につながると思います。

インバウンド対策としては、中国など東南アジアより欧米の観光客に力を入れるべきだとも考えています。

皆さんはそれぞれ家業を継ぐ気持ちは最初からありましたか。

【兜山さん】

もちろん、板前の修業をしていました。

【山根さん】

始めはありませんでした。東京でバーテンダーの修行をしていて、自分の店を持つつもりでした。

【林原さん】

そのために東京のホテルに勤めていました。

【小椋さん】

最初から継ぐつもりでいました。

大山の10年先を見据えた考えはどうですか。

【小谷さん】

受け入れの仕組みを考えて長期滞在が楽しめる地域にしたいです。大山には素材が多いと思います。